

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

|   |         |   |
|---|---------|---|
| 1 | 施設名     | 仙台国際センター及びせんだい青葉山交流広場   |
| 2 | 指定管理者   | 青葉山コンソーシアム<br>(構成企業：株式会社東北共立、日本コンベンションサービズ株式会社、野村不動産パートナーズ株式会社、石井ビル管理株式会社、小田原電機工業株式会社)                              |
| 3 | 指定期間    | 平成27年4月1日から平成32年3月31日まで   |
| 4 | 施設の利用状況 | ≪国際センターの利用者数(交流広場との合同利用を含む)≫<br>平成29年度：356,946人(前年比 約140%)<br>平成28年度：254,091人 平成27年度：293,278人                       |
|   |         | ≪交流広場のイベント利用者数(国際センターとの合同利用は含まない)≫<br>平成29年度：115,450人(前年比 約140%)<br>平成28年度：82,700人 平成27年度：57,330人                   |
| 5 | 収支の状況   | ≪費用≫<br>利用料金制を採用しているため指定管理料の支出はない   |
|   |         | ≪収入≫<br>・ 使用料収入 578,234千円(前年度：507,193千円)<br>(上記金額は国際センター施設使用料・附帯設備利用料、交流広場使用料の合計)<br>・ その他収入 70,868千円(前年度：62,168千円) |
| 6 | 利用者の声   | ≪実施状況≫<br>仙台国際センター独自の利用者アンケートを実施し、その結果を業務改善に役立てた。   |

### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

| 評価分野 |            | 所見   | 評価 |
|------|------------|--|----|
| I    | 総則         | 施設の設置目的に沿った適切な運営を行っており、施設目的も十分に達成されているため、右記の評価とする。   | S  |
| II   | 施設の運営管理体制  | 全てにおいて基準を満たしており、セキュリティ対策、事故防止策、災害時対応等にも適切に対応している。安全かつ円滑な施設の運営管理体制を構築しているため、右記の評価とする。   | S  |
| III  | 施設・設備の維持管理 | 全てにおいて基準を満たしている。特に仙台国際センターの会議棟は建設から25年以上経つ古い建物であるため、経年劣化への対応が求められる施設である。指定管理者は各設備の状況をよく把握し、適切な管理を行っているため、右記の評価とする。   | S  |
| IV   | サービスの質の向上  | 全てにおいて基準を満たしている。青葉山コンソーシアムは複数の企業で構成される団体であるが、職員間の情報共有や役割分担も適切に行われており、それぞれの専門性を活かした管理運営が行われている。また、運営全般を網羅した運営ガイドラインを整備し、サービス水準の確保が図られるような体制が構築されており、右記の評価とする。 | S  |
| V    | 施設固有の基準    | 民間企業のノウハウを活かした施設運営が行われ、事業収支及び利用者数が過去最大を記録した。関係機関との関係も良好で、市が求める事業の他に、多くの自主事業も実施するなど、全体を通して優秀である。一部で目標に達しなかった部分はあるものの、全体を通して概ね良好な実績となっているため、右記の評価とする。          | A  |

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

| 評価すべき取組み | 取組み状況 |
|----------|-------|
| 1        |       |
| 2        |       |
| 3        |       |
| 加点評価     |       |
| —        |       |

### 四 評価総括

| 《指定管理者（青葉山コンソーシアム）による自己評価》  |
|---|
| <p>私ども青葉山コンソーシアムは、民間企業5社による共同企業体として、平成27年4月1日より、「仙台国際センター及びせんだい青葉山交流広場・駐車場」の指定管理者として、適正な施設管理業務と利用者サービスの向上と地域貢献に努め、加盟5社の特色を活かした独立採算の施設管理運営を行っております。特に29年度は、5年間の指定管理期間の折り返しの年度にあたるため、過去2年間の運営実績を踏まえ、自主事業等の大幅な見直しを実施いたしました。</p> <p>利用状況を分析すると、国際会議30件、国内会議29件、その他466件の多彩な催事が行われました。</p> <p>本年の特出すべき催事「世界防災フォーラム/防災タボス会議@仙台2017・防災推進国民大会2017・2017防災産業展in仙台」は、40以上の国・地域から900名以上の会議登録者の方々に、同時開催イベントを含む一般市民来場者も含め約11,200名の方にご来場いただきました。</p> <p>また、5月16日(火)～5月21日(日)に開催された「第90回日本整形外科学会学術総会」と、5月31日(水)～6月4日(日)に開催された「第116回日本皮膚科学会総会」では、約2ヶ月にわたって交流広場に大型テントが設置されました。大型テントの設置は、平成28年3月の「第80回日本循環器学会」以来となりましたが、異なる学会が共同で設置運営を行ったのは、今回が初めての試みとなりました。どちらの学会も無事終了することができたことは、今後の仙台開催を予定している学会関係者にとっても、大変参考になったのではないかと思います。</p> <p>数年連続でご利用いただいている「東北映像機器フェスティバル2017/東北映像フェア2017」「東北復興水産加工品展示商談会2017」「第25回宮城県歯科大学・第25回東北デンタルショー」「第19回ダイレクトSHOW2017 in TOBE」では、年々規模が拡大し、東北中から多くのお客様にご来場いただくなど、当センターの知名度が年々上がってきていることが感じられます。学会以外では、昨年度に引き続き「第2回全国餃子まつりin仙台」が開催されたほか、8月には「第41回全国高等学校総合文化祭(みやぎ総文2017) 文芸部門」や、「日本ハンドベル連盟創立40周年記念 アジアフェスティバル」が、3月には「東北復興アマチュア無線フェスティバル」が東日本で始めて開催され、全国から約2,000名の愛好者が集結し、主催者の予想を大幅に上回る人出に、御礼と共に次回の利用を検討頂けるコメントもいただきました。</p> <p>自主事業関係では、伊達政宗生誕450周年を記念し、2つの文化講演会を開催しました。</p> <p>一つ目は、「伊達政宗のまちづくり 城下町仙台的成り立ち」と題して、東北古代史の専門家、宮城学院女子大学 非常勤講師の木村浩二さんを招いて、伊達政宗公が築いた城下町仙台的成り立ちや、なぜ仙台城がこの青葉山に造られたのかなど、200名を超える参加者が興味深い話に耳を傾けました。</p> <p>二つ目は、真田幸村十四代・仙台真田家十三代当主真田徹氏をお招きし、真田家のルーツ、あの有名な六文銭の真田家家紋についてなど、直系子孫が明かす興味深い盛りだくさんの内容の話でした。200名を超える方々の中には、遠く青森から参加いただいた方もおりました。</p> <p>また、29年度からの新たな自主事業として、仙台ゆかりのアーティスト・パフォーマーによる文化エンターテインメントの祭典「仙台国際センター秋祭り せんだい育ち」を実施いたしました。当日は台風の影響により、会場をエントランス広場から会議棟のレセプションホール桜に移しての開催となったものの、700名もの方々にご参加いただきました。</p> <p>さらに、将来的に仙台国際センターの利用を検討されている主催者様や関係者様に当館を実際にご覧いただき、仙台でコンベンションを開催する上で受けられる支援や、おもてなしメニューの紹介やより具現化された催事イメージを展開していただき、コミュニケーションをはかる機会として、「SENDAI Communication Fair in仙台国際センター」を実施いたしました。250名の来場者と出展企業23社とのマッチングの様子は、翌日の河北新報朝刊に写真付き記事として取り上げて頂きました。</p> <p>そのほか、より良いセンター運営に寄与するため、「SENDAIおもてなし懇談会」で頂いた貴重なご意見を参考に、旧売店跡地での「仙台の伝統工芸品、工業製品」等を展示することでの販路拡大の提供に努め、来館したお客様に対するおもてなしの向上を図ったほか、宮城県美術館・仙台市博物館・東北大学広報課・仙台国際交流協会の実務者に参加いただいた、「青葉山・川内コンベンションエリア連携会議」では、貴重な意見交換の中からインセンティブツアーや懇親会の協力など、新たなテーマを共有することができました。</p> <p>また、青葉山コンソーシアムの職員が外の人々と繋がることを目的に、「仙台市中心部商店街活性化協議会」にも積極的に参加いたしました。</p> <p>今後も、利用者の利便性向上や業務効率化、省エネルギー性を重視した施設維持管理、利用促進や国際会議開催のための積極的な誘致活動と広報活動、そして市民の皆様にも広く周知され親しみやすい施設づくりに努め、仙台市の発展と経済成長に貢献できますよう努めてまいります。</p> |

| 《施設設置者（仙台市）による評価》  | 総合評価 |
|--|------|
| <p>平成27年度から利用料金制(施設利用料を指定管理者の直接の収入とし、その収入から施設所有者である市に納付金を納入する制度)による指定管理制度を導入し、公募によって選定された青葉山コンソーシアムが「仙台国際センター及びせんだい青葉山交流広場・駐車場」の指定管理者として施設の管理運営を行っている。</p> <p>本年度は、利用者数及び全体収益が過去最高を記録し、仙台市に約4,830万円もの納付金を納めるなど、安定的かつ優秀な施設運営が行われている。</p> <p>施設の管理面も全体を通して良好で、施設の特性に応じた管理が行われており、過度な利益追求で施設管理や人材育成等を疎かにするといった状況も見られず、総じてバランスの取れた運営がなされている。</p> <p>なお、利用料金制を採用する国際センターでは、従来の定型的な管理業務だけではなく、民間企業のノウハウを活かした能動的な施設運営が求められるため、施設固有の評価については他分野よりも厳しい評価基準を設定している。</p> | S    |

◎ 評価担当課（施設所管課）：文化観光局観光交流部誘客戦略推進課